

CSR活動の目標と実績

富士通グループは、2020年の中期目標の達成に向け、5つの重要課題に沿ったCSR活動を推進していきます。

CSR基本マネジメント

目標と実績

項目	中期目標（2020年度）	2011年度実績	2012年度目標
全グループ横断的なCSR活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 富士通グループ横断的にCSRマネジメントプロセスが確立されており、さらにバリューチェーンを含めた範囲でグローバルスタンダードに沿ったCSR活動を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ISO26000の7つの中核課題に基づき取り組み状況を確認。ワークショップにて252項目にわたるチェックリストを策定、富士通において178項目が対応済みであることを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 未対応項目に関する対応検討と優先順位付け。 チェック対象範囲を海外を含めたグループ会社へと拡大。
ビジョンに基づくPDCA推進	<ul style="list-style-type: none"> CSR活動の中期・短期目標が富士通グループ全体で設定・共有され、実施、評価サイクル（PDCA）を回し、継続的な活動の向上を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> CSR基本方針に基づいた中期目標、2012年の目標を策定。 外部の有識者との対話を通じ、2020年へ向けての取り組みべき課題と目標を明確化。 組織目標策定において、社会・環境分野への配慮を必須項目として設定。 	<ul style="list-style-type: none"> CSR中期目標、および単年度目標のPDCAプロセスを確立。 2020年へ向けて取り組むべき課題の具体的なプランを公表。 組織目標策定において、プロセスの強化と具体的ゴールの策定に着手。
社内浸透	<ul style="list-style-type: none"> 富士通グループ全社員が、経済、環境、社会の側面を総合的に捉え、自律的にCSR活動を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> CSR基本方針を社内に浸透させるための仕組みを構築。 <ul style="list-style-type: none"> 経営トップ自らのCSRメッセージ配信を開始。 CSR社内勉強会の実施（のべ412名参加）。 	<ul style="list-style-type: none"> CSR基本方針を社内に浸透させるための仕組みとして、Webや社内報、イベントなどのツールの刷新。 全社員がCSR基本方針を自らの業務に結びつけ、自主的参加を促す制度を拡充。 <ul style="list-style-type: none"> CSRタスクフォースの対象部門の拡大。 アンケートやe-Learning、社員向け座談会の実施による、社員教育の拡充。 表彰制度導入。

重要課題 1 ICTによる機会と安心の提供

目標と実績

項目	中期目標（2020年度）	2011年度実績	2012年度目標
ICTによる新たな価値の提供	<ul style="list-style-type: none"> 世界最先端のコンピューティングにより、未来をシミュレートし、気候変動や資源不足、災害など、様々な難問の解決に貢献している。また、都市、食、医療、教育などに関わる様々な課題について、ICTを活用したソリューションをグローバルに展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーコンピュータの「京」が、計算速度世界No.1を獲得。 世界トップレベルの高信頼性（稼働率99.9%）を実現したセキュアなクラウドプラットフォームを世界6カ所で展開。 本業を通じた社会課題の解決に関する勉強会の実施（参加者約100名）。 途上国ビジネスセミナーの共催、NGOとのパートナーセミナーを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 高度なコンピューティングを活用した、社会課題解決型プログラムの拡充。 実ビジネスとしてのICTを活用した、社会課題（医療、教育、食など）に対するソリューション事例の複数創出。 社会課題解決型プロジェクト評価制度導入の検討。
ICTへのアクセス拡大	<ul style="list-style-type: none"> 世界の一人でも多くの人々が、ICTの活用により自己の可能性を追求できるよう、サイバー社会の扉を開く、誰もがわかりやすく使いやすい端末・インターフェースの提供や、開発途上国へのICTの導入を支えるシステムを提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 開発途上国を含む、グローバルな地域へ向けたインターフェースの提供。 途上国の現状理解を含む、多くの人々に「機会」をもたらすユニバーサルデザイン活動の推進（活動費用約3億円）。 公開サイトにおけるアクセシビリティJIS対応AAレベル（一部準拠）。 富士通の考える未来を具現化するための端末デザインコンテストをグローバルに実施。1,000点を超える応募を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの方々にICTを便利に快適に使っていただける製品開発を行うため、多様なステークホルダーの意見を取り入れ、実証実験を実施。 途上国における課題解決型ビジネスのさらなる創出へ向け、課題の見極めとICTが貢献すべき分野の特定のための調査実施（効果の試算、プロセスの確立など）。
ICTによる信頼と安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> 経済・社会活動を支えるインフラであるICTシステムを安定的に運用することで、信頼と安心を確保している。また、ICTソリューションの提供を通じて、個人情報や企業機密を守る高度なセキュリティ環境を実現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内のお客様に納入する全てのインターネット接続システムにおいて、セキュリティ監査を義務づけ品質チェックを実施。 社内、および取引先のべ約1,160社、約18,700名に対して情報セキュリティ研修会を実施。 国内のデータセンターにおいて、外部評価機関「株式会社アイ・エス・レーティング」の格付けAランク以上（うち4つはAAAランク）を取得。 JASA監査人をはじめとした資格取得者数累計277名（JASA監査人は国内最多）。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記取り組みを維持、強化。 サイバー社会のセキュリティ確保に向けて政策対応を強化。 グローバルコミュニケーション基盤の推進と整備。

重要課題 2 地球環境保全への対応

目標と実績

項目	中期目標（2020年度）	2011年度実績	2012年度目標
お客様・社会全体への貢献	<ul style="list-style-type: none"> テクノロジーおよびソリューションの提供により、2020年に国内で年間3,000万トンのCO₂排出量削減、世界全体の温室効果ガス排出量の削減に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> グリーンICTの提供により、2009年度から2011年度末にグローバルで累計998万トンのお客様や社会のCO₂排出量削減に貢献。 	<ul style="list-style-type: none"> グリーンICTの提供により、2009年度から2012年度末までにグローバルで累計1500万トン以上のお客様や社会のCO₂排出量削減に貢献。
自らの変革	<ul style="list-style-type: none"> 富士通グループの各事業領域（ソフトサービス、ハードウェア製品、電子デバイスなど）における総合エネルギー効率が世界トップレベルとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガスの総排出量を2011年度末にグローバルで1990年度比18.2%削減。 	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガスの総排出量を2012年度末までにグローバルで1990年度比6%削減（CO₂：5%削減、CO₂以外の温室効果ガス：20%削減）。
生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> 「ビジネスと生物多様性イニシアチブ」のリーダーシップ宣言において掲げられたすべての項目を推進し、具体的な取り組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動における生物多様性への影響や貢献を測る定量指標、および影響を低減しICTによる貢献を拡大する仕組みを構築する〔BD統合指標により評価した影響度（主要事業領域）を2009年度比4.6%削減〕。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動における生物多様性への影響や貢献を測る定量指標、および影響を低減しICTによる貢献を拡大する仕組みを構築〔BD統合指標により評価した影響度（主要事業領域）を2009年度比3%削減〕。

目標と実績

項目	中期目標（2020年度）	2011年度実績	2012年度目標
組織風土の改革	<ul style="list-style-type: none"> 人権啓発やダイバーシティ推進の取り組みを通して、誰もが働きやすい職場となっている。 多様な視点から自由闊達に議論し、社内外において新たな知恵や技術を創出し続ける組織風土が醸成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 富士通において人権啓発推進委員会（全社的な人権啓発推進体制）を起点に工場・支社・事業所などの研修・啓発の取り組みを実施。 ダイバーシティ推進について、富士通の各職場および国内グループ会社での展開を目指し、職場代表推進責任者と各社推進責任者に勉強会を実施。 ダイバーシティに関する意識調査を富士通で実施し、属性ごとの結果を社内で公開。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記研修・啓発活動のさらなる推進と国内グループ会社への浸透。 左記ダイバーシティ推進について、さらなる展開を目指し、個別支援などを充実。 左記意識調査において、職場環境に関する肯定回答率の向上を目指し、課題の深堀を実施。
個人の活躍支援	<ul style="list-style-type: none"> 社員一人ひとりが互いを認め、それぞれが持つ付加価値を最大限に発揮し、組織に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> 富士通でのポジティブアクションの実施。 <ul style="list-style-type: none"> 女性リーダー向け育成プログラムの実施（受講者69名）。 女性のダイバーシティメンターを新設。 女性幹部社員向けリーダーシップワークショップの実施（受講者31名）。 国内グループ会社も対象に、富士通においてマイノリティーの社員（女性・外国人・育児中）へ向けたネットワークイベント（社員の活躍を支援するためのワークショップや情報交換など）を開催。 富士通 女性幹部社員比率：3.7% 障がい者雇用率：2.05% 	<ul style="list-style-type: none"> 左記ポジティブアクションを拡充（女性のダイバーシティメンターの活用など）。 左記ネットワークイベントを、より効果的に拡充。 富士通におけるダイバーシティに関する意識調査にて、個人の意識に関する肯定回答率の向上を目指し、課題の深堀を実施。
ワークライフバランスの促進	<ul style="list-style-type: none"> 社員一人ひとりがワークライフバランスを実現し、社会と共存共栄している。 	<ul style="list-style-type: none"> 富士通における各種制度の利用実績。 <ul style="list-style-type: none"> 育児休職取得者：118名・妻の出産休暇取得者：507名 ボランティア休暇取得者：87名 「働き方改革」をテーマに、国内グループ会社も対象に、ワークライフバランスに関するフォーラムを富士通において実施。参加者：78名 	<ul style="list-style-type: none"> 富士通におけるダイバーシティに関する意識調査にて、ワークライフバランスに関する肯定回答率を向上させる。

重要課題 4 地域と社会に貢献する人材の育成

目標と実績

項目	中期目標（2020年度）	2011年度実績	2012年度目標
「真のグローバルICTカンパニー」を支える人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略の遂行と社会的価値の創造を両立させることができるグローバルなビジネスリーダーを育成することで、社会の発展に貢献している。 社員一人ひとりが企業理念を理解し、理念に基づいて行動することにより、社会に対して新たな価値を創出している。 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルなビジネスリーダーの育成。 <ul style="list-style-type: none"> 次世代ビジネスリーダー育成プログラム（受講者91名）。 海外拠点を対象としたリーダーシップ開発プログラム（受講者62名）。 日本国内の若手を対象としたグローバルコンピテンシー養成プログラム（受講者97名）。 共通善に基づいた事業活動を実現する実践知研究センターの設立。 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルなビジネスリーダーの育成。 <ul style="list-style-type: none"> 海外拠点との連携強化による、次世代ビジネスリーダーの多様性の促進。 継続的な育成による、ビジネスリーダーの質と規模の拡充。 ベースラインの強化。 <ul style="list-style-type: none"> 社員一人ひとりが企業理念を理解し、企業理念に基づいた行動ができるためのベースライン教育の強化。 社会や市場の変化の中からビジネスを発想する研修機会の増加。

重要課題 5 ステークホルダーとの対話と協力

目標と実績

項目	中期目標（2020年度）	2011年度実績	2012年度目標
ステークホルダー・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> マルチステークホルダーとの双方向かつ継続的なコミュニケーションを通じて、信頼関係が醸成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 有識者ダイアログを計5回開催（本業を通じた社会価値創造、ユニバーサルデザイン）。 「社会・環境報告書」の改善へ向けたアンケート実施（社内外）。約3,600名が回答。 東日本大震災における当社の支援をまとめた冊子の発行。 	<ul style="list-style-type: none"> 当社のCSR活動、および「社会・環境報告書」を通じたコミュニケーションに対し、様々なステークホルダーからのご意見を基に実際の企業活動へと落とし込む。 近隣地区の発展へ向けた、住民との定期的なダイアログの実施。
ステークホルダーとのコラボレーション	<ul style="list-style-type: none"> 社会が必要とする価値を提供するにあたり、富士通グループ全社員がステークホルダーとの最適なコラボレーションを実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業団体や研究会、NGO、NPOなど、約1,500以上のパートナーと連携した活動の実施。 東日本大震災の復旧・復興における、複数のNPOとの連携実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 本業を通じた、NGO、NPO、国際機関など多様なステークホルダーとの関係構築と社会課題の解決。 多様なステークホルダーとの対話によるイノベーション創出へ向けた場の創造。
社会との共生	<ul style="list-style-type: none"> 社員の多くが、自社の強みを活かした社会貢献活動に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と結びついた社会貢献活動の社内データベースを構築し、1,000件を超える実績を把握。 被災地ボランティアとしてのべ約360人を派遣。 通信事業者や一部地方公共団体と連携し、被災地の自治体を中心に合計約1,000台のPCを寄付。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会との共生プログラムの評価制度の導入を検討。 富士通グループの強みを活かした社会貢献プログラムの拡充。